

聖書：Ⅱペテロ 3：14～18

説教題：恵みと知識において成長

日時：2018年5月13日（朝拝）

今年の1月から読んで来たペテロの手紙第二の最終回となりました。ペテロはこの手紙で、キリストの再臨の日についてのメッセージを語って来ました。この手紙が書かれた当時は、イエス様が天に昇られてから30数年間が経っていて、ある人々は「なぜその日はまだ来ないのか？その日は結局、来ないのか？」と考え始めていました。また「最後のさばきの日など来ないから、その日を恐れて歩む必要はない！」と言って、不道德な歩みをする人たちもいました。そんな中、ペテロはもう一度、キリスト教の根本メッセージをこの手紙で語って来ました。すなわち最後のさばきの日は必ず来る！その日が遅いと思うなら、それは神が一人でも滅びることを望まず、みなが悔い改めに進むことを望んで忍耐しているからである。しかしその日はついに来る。そうすれば今の私たちが住んでいるこの世界は崩れ去り、やがて義の宿る新しい天と新しい地が現れると。この真理に立ってペテロは最後のアピールを今日の箇所です。

まず14節：「ですから、愛する者たち。これらのことを待ち望んでいるのなら、しみも傷もない者として平安のうちに神に見出していただけるように努力しなさい。」ここに言われていることは、将来についての確信が現在の生活を変えるということです。将来にあるものを凝視するがゆえに、現在の生活を変えて行く。私たちもそのようなことをします。たとえば結婚する二人がそうです。新しい生活に向かって経済的にも準備しますし、社会における仕事の面でも調整をします。また健康の面でも、精神的な面でも、やがて始まる新しい生活に向けて今の生活を整えて行きます。就職する人もそうです。新しい歩みに移行することを考えて、その準備をして行きます。遠くへ旅行する人もそうだと思います。その日を楽しみにして、その日に向かって備えます。

では私たちがなすべき準備は何でしょうか。それは「しみも傷もない者として、神に見出していただけるように」ということです。やがて私たちが入る国が、義の宿る新しい天と新しい地(13節)であるならそうです。そこに入るにふさわしい者となることイコールしみや傷のない者となることです。もちろん私たちは地上では完全には到達しません。ですからこれは地上にある間、私たちにとって絶えず目標です。その取り組みを通して、やがての日にはしみも傷もない者として平安のうちに神に見出されるように！ということなのです。

次の 15 節には「私たちの主の忍耐は救いであると考えなさい」とあります。先に 9 節で見ましたように、再臨がまだ起こっていないのは、主なる神が忍耐してくださっているからでした。ですからこのように日が延ばされていることを何とも思わずに無駄に過ぎ去らせてしまってはならない。今日という日が与えられていることを感謝して、この日を自分の救いのために一層役立てるということです。昨日よりも今日、今日よりも明日、と主が待っていてくださる間に早くに悔い改め、自分の救いに生かすということです。

これは私たちの愛する兄弟パウロもあなたがたに書き送った手紙の中で言っていることであるとペテロは言います。具体的にペテロはパウロのどの手紙のどの部分を指しているのでしょうか。主が忍耐して待っていてくださっている間に悔い改めるべきことについては、ローマ書 2 章 4 節が思い浮かびます。「神のいつくしみ深さがあなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かないつくしみと忍耐と寛容を軽んじているのですか。」あるいはキリストの再臨という光に照らして今を聖く歩むべきことについては、パウロが最初に書いたテサロニケ人への手紙第一をはじめとして、たくさんの箇所が思い浮かびます。16 節では、他のすべての手紙でも、パウロは同じことを語っていると言います。パウロのどの手紙が、このペテロの手紙の読者たちに知られていて、どの手紙が知られていなかったのかについては議論があり、確定することは難しいようですが、それがどうであろうと、ここでのペテロのメッセージには影響がありません。ペテロは、自分が今述べているメッセージは、パウロのすべての手紙にも見られるように、使徒たちが一致して述べているキリスト教の根本的メッセージなのだから、それをしっかり心に刻み、主の日が来るという光のもとで今日を歩みなさい！と言っているのです。

さて、その後でペテロは少し面白いことを言います。16 節の中ごろから、パウロの手紙を指して、「その中には理解しにくいところがあります」と言います。これは一体どういうことでしょうか。ある人は、ペテロはパウロと同労者だけれども、パウロをちょっと批判する心も持っていたとか、実はこの二人は仲が悪かったなどというニュアンスを読み取ろうとしますが、そうではないでしょう。ある意味でペテロのこの言葉は私たちにとって慰めでもあります。パウロの手紙には簡単でないところもある。もう少し広げて言えば、聖書は簡単な話ばかりではない。ですから私たちになかなかすぐ理解できないところがあっても当然です。しかしペテロがこのように言っていることには目的があります。それは、そういう理解の難しいところを勝手に解釈し、誤った主張をし、滅

びの道を行く者たちがいる！と警告することです。具体的にパウロの手紙のどの部分を指しているのかはよく分かりませんが、多くの注解者が述べるのは、たとえば信仰義認の教理です。人は行いによらず、ただ恵みのゆえに信仰を通して救われるとパウロは言います。するとある人は、それなら良い行いはいらぬ。罪人が救われて神の栄光が現されるのだから、もっと気にせず罪を犯そうではないかと開き直ったことを言う。すなわち曲解です。あるいはパウロは私たちは今や律法の下ではなく、恵みの下にあると言います。するとある人は、それならもはや律法を気にせず歩んでも良いと言います。またパウロは、私たちは自由を与えられるために召されたのだと言います。するとある人々は、私たちは自由なのだから、今や何にも縛られず自分の好きなように生きよう！と言います。確かに真理には微妙なところがあります。山の稜線あるいは尾根を行くようなところがあります。バランスを欠いて片方に傾くと、そこから滑落してしまうようなところがあります。ですから私たちはある言葉をもとにして自分の好き勝手な主張を展開するのではなく、聖書全体によくよく聞く必要があります。聖書を用いて自分の言いたいことを言うのではなく、聖書自身が言っていることに良く耳をそばだてて聞き、そのみに従うようにしなくてはなりません。

ここでペテロはさばきの日を延ばしている主の忍耐について語りました。私たちはこのメッセージを聞いた時、神への感謝の気持ちを持ちます。しかし同時に悪魔的な考えも忍び寄って来ます。それは、ではまだしばらく大丈夫ではないかというもの。もう少し自分のしたいことを続けていても時間的余裕があるのではないか。これは聖書の意図からは外れた適用です。そういうことをしないように注意しなくてはなりません。

17 節に、不道德な者たちの惑わしに注意するように！とされています。様々な理屈をつけて、不道德な歩みへ引っ張って行く偽教師たちにだまされないように。そうしてあなたがたが持っている堅実さを失うことにならないように、よく気をつけなさい、とされています。

さて、こうして最後の 18 節で、ペテロは肯定的な勧めをもってこの手紙を閉じます。この 3 章 18 節はこの手紙のテーマ聖句と呼ばれる御言葉です。ここでペテロが述べていることは何でしょうか。それは「成長しなさい」ということです。これは現在時制で書かれていますから「成長し続けなさい」ということです。昨日よりも今日、今日よりも明日、成長すること。これが主の再臨の日に向かう私たちのなすべき準備であるということです。もし私たちの霊的な成長が止まっているなら、それは主の日への備えをし

ていないということです。むしろ止まっている分だけ偽りの教えに流されて行く余地を自分に残していることになる。やがて滅ぼされるこの世にどっぷりとつかり、この世に一体化する危険が非常に高くなる。ですから再臨を見据えて私たちが取り組むべき課題は日々成長することです。それは「私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの恵みと知識において」と言われています。ここでまず「恵み」が先に来ています。クリスチャンの成長を考える上で一番大切な要素は「恵み」です。私たちに求められている成長は、自分の力による成長、人間の力による成長ではなく、恵みにおける成長です。そしてこの恵みとセットになっているのは「知識」です。聖書が言う知識は、頭だけの知識ではなく、人格的な知識であり、神またキリストとの交わりを通してその方を知ることです。この知識の大切さは、この手紙の最初の部分でも強調されていました。1章2節：「神と、私たちの主イエスを知ることによって、恵みと平安が、あなたがたにますます豊かに与えられますように。」そこに恵みと平安を得たいと思うなら、漠然とそれを祈るだけであってはならないこと。それは神と主イエスを益々知ることを通して与えられると言われました。ですからここでも「恵み」と「知識」においてと言われています。

では具体的にはそれはどうすることなのでしょうか。私たちはどうやって主の恵みと知識において成長し続けることができるのでしょうか。その第一の手段は言うまでもなく聖書を読むことです。1ペテロ2章2節：「生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、霊の乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。」成長するためには栄養が必要です。食べない人は成長しません。霊的に成長しない人はどういう人かと言えば、それは端的に言えば聖書を読まない人です。逆に成長する人は聖書を読んでいる人、教会でばかりでなく、普段から家でも継続的に読んでいる人です。次にあげられるのは祈りです。祈りは私たちから神への一方通行の連絡手段ではありません。祈りを通して私たちは神と交わります。その交わりによって神からのちが流れて来ます。祈りを通して私たちは御言葉の意味についてより教えられ、目を開かれるようにして知るという経験をします。また教会生活を通して差し出される恵みの手段にあずかることもそうです。説教に聞くこと、聖餐式にあずかること。単なる義務としてではなく、聖霊が働く手段であると信じ、祈りつつ待ち望むなら、それはさらに主を知り、主の恵みにあずかるための大切な手段となります。

また別の面から言えば、私たちの霊的ないのちに有害なものを避けることも霊的な成長を考える上では大事なことでしょう。自分のたましいに有害な影響を及ぼしかねない

ものに無頓着に自分をさらしてはいけません。この世の価値観に基づくこの世の楽しみにどっぷりつかれば、神のことは必ず後回しになり、霊的な成長は阻害されます。神の前で考えて、自分を信仰から引き離しかねないもの、霊的な害を与える可能性が高いものを取り除くこと、それらを後ろに捨て置くことも霊的成長を考える上で欠かせない課題です。

そして実際に神に従う生活が必要です。子どもも栄養を取るだけで運動しなければ健全には成長しません。それと同じように、私たちも信じていることの実践が必要です。御言葉に服従する生活が必要です。神の召しに従って、神の国の働きに身を投じることが必要です。これらのことに継続的に取り組むこと。そこに成長の歩みが導かれるのです。

ペテロは最後に「イエス・キリストに栄光が、今も永遠の日に至るまでもありますように」と頌栄をささげます。「永遠の日」とはキリストが再臨し、新しい天と新しい地が現れた後の永遠に続く時代のことです。その世界において永遠に輝くキリストの栄光をペテロは見つめています。そのキリストの光に照らされて永遠に住む日が来ることを見つめて、私たちはここで言われていることに励みたいと思います。

以上のペテロの手紙第二。私たちはイエス・キリストの再臨のメッセージを自分の日々の信仰生活に重大な意味を持つ教えとして受け止めて、この日を待ち望む歩みをささげているでしょうか。私たちにその歩みを止めさせる要因は色々あります。一つは主の再臨が遅れているように思われること。偽りの教えが周りにあること。私たち自身のうちにある肉の弱さ、怠慢さ、無気力さ、……。そんな中で、その日に向かう私たちの準備としてペテロが勧めたことは日々成長することです。主の恵みと知識において成長し続けることです。私たちは改めてこのことを自分の課題としたいと思います。昨日より今日、今日より明日、御前に成長前進すること。そうする人こそ、偽りの教えから守られ、また後退の危険からも守られて、主の日に向かって良き準備をする人となります。そしてそういう人こそ、やがての日に平安の内に神の御前に出ることができる者とされるのです。